

2013 年度

事業報告

2013 年 1 月 1 日～2013 年 2 月 28 日

社団法人 郡山青年会議所

2013 年 3 月 1 日～2013 年 12 月 31 日

公益社団法人 郡山青年会議所

年間事業報告

月	日	事業内容	
1月	4日	新年祈禱	
	4日	新春賀詞交歓会	
	4日	OB会定時総会・新年会	
	5日	会津青年会議所新年会	
	7日	第1回常任理事会	
	8日	街こおりやま新年会	
	6日	第1回常任理事会	
	11日	郡山医師会新年祝賀会	
	16日	郡山市PTA連合会新春教育懇談会	
	17日	郡山ロータリークラブ卓話	
	17日	第1回理事会	
	18日	京都会議 18日～20日	
	18日	京都会議地区ナイト	
	20日	本名徹次氏ベトナム文化教育スポーツ観光省「文化功労賞」受賞記念祝賀会	
	21日	郡山市商店街連合会新年会	
	22日	郡山商工会議所新春議員懇談会	
	22日	市長を囲む「文団連新春交流会」	
	22日	郡山青年会議所新年会	
	23日	同友会郡山地区1月臨時総会	
	25日	白河青年会議所新年会	
	26日	浪江青年会議所新年会	
	26日	郡山歯科医師会新年会	
	29日	1月例会・定時総会	
	30日	郡山市市史編さん委員会	
	2月	1日	第2回常任理事会
		1日	安積歴史博物館新年会
		2日	第1回会員会議所会議
		9日	東北地区ゼミナール委員会開校式
		9日	新東北3つの夢総決起大会兼ゼミナール懇親会
		13日	第2回理事会
15日		第1回OB役員並びに現役役員との懇談会	
17日		福島ブロック新春の集い	
18日		久米正雄先生・宮本百合子先生勉強会	
19日		国土緑化郡山市推進委員会	
20日		2月例会	
21日		第3回市長と語ろう「わたしたちの夢」	
22日		郡山市明るいまちづくり推進委員会協議会委員研修会	
23日		新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナー23日～24日	
24日		あやめ会合同新年会	
27日		夢と開く心の扉 桜colorプロジェクト	
27日		郡山警察署・北警察署幹部並びに青年警察職員との懇談会	
28日		東白川青年会議所新年会	
3月	1日	第3回常任理事会	
	2日	第2回会員会議所会議	
	2日	全国合唱祭歓迎会	
	3日	久米正雄先生・宮本百合子先生墓参	
	3日	第18回音楽都市こおりやま 全国合唱祭	
	7日	監査会	
	8日	こおりやま東都学園 郡山健康科学専門学校卒業式	
	9日	(公社)日本青年会議所第63回全国大会奈良大会副主管締結式	
	9日	第29回自衛隊郡山音楽祭	
	10日	復興創造フォーラム2013	
	10日	福魂祭 春蛸 10日～11日	
	13日	第3回理事会	
	16日	がくとくんお誕生会	
	22日	3月臨時総会	
	23日	「つながろうふくしま 福島再興祭り」 23日～24日	
	26日	郡山商工会議所通常議員総会・懇親会	
	27日	3月例会佐藤三郎氏講演会	

	28日	県南6JCエリア会議
4月	1日	第4回常任理事会
	3日	郡山市長選公開討論会
	4日	郡山市本庁舎改修工事竣工式典
	4日	郡山市こどもまつり第1回実行委員会
	6日	第3回会員会議所会議
	6日	郡山東都学園入学式
	10日	FSGカレッジリーグ合同入学式
	12日	第4回理事会
	16日	開成山公園「桜のライトアップ点灯式」並びに懇親会
	17日	郡山市青少年健全育成推進協議会第1回理事会
	17日	第1回久米賞・百合子賞実行委員会
	21日	陸上自衛隊郡山駐屯地創立60周年記念行事
	22日	4月例会・チェリーパーティー
	23日	郡山市青少年健全育成推進協議会総会
	23日	郡山商工会議所青年部定時総会懇親会
	25日	県南6JCエリア会議
	27日	エネルギーキッズカレッジ参加者説明会
5月	1日	第5回常任理事会
	2日	郡山地域道路整備促進期成同盟会
	2日	郡山まちづくり推進協議会通常総会
	3日	会員会議所会議
	5日	こどもまつり
	10日	郡山市交通対策協議会定期総会
	10日	ブライトリング歓迎レセプション
	11日	「大空を見上げよう！」プロジェクト11日～12日
	12日	エネルギーキッズカレッジ第2回参加者説明会
	13日	第5回理事会
	14日	郡山商工団体暴力追放対策懇談会
	17日	安積歴史博物館役員会
	17日	新定款読み合わせ会
	18日	ミュージカルがくと館全館オープニングセレモニー
	18日	憲法タウンミーティング
	19日	エネルギーキッズカレッジ第1回
	20日	福島県立聾学校児童生徒後援会役員会・総会
	20日	郡山商工会議所女性会総会懇親会
	21日	福島県中小企業家同友会総会懇親会
	23日	郡山商工会議所会館建設地鎮祭
	23日	郡山警察署協議会
	23日	会頭公式訪問
	25日	郡山市まちなか子ども夢駅伝競走大会
	25日	5月例会並びに榎本秋先生講演会
	28日	郡山商工会議所通常議員総会・懇親会
	29日	郡山市国際交流協会理事会・通常総会
	30日	郡山市観光協会総会
	30日	世界ベンチイス創作コンテスト実行委員会
	30日	県南6JCエリア会議
	31日	ふくしまフェスティバルin郡山 前夜祭交流会
	6月	1日
3日		郡山ユネスコ協会定期総会
3日		第6回常任理事会
4日		郡山市商店街連合会総会懇親会
6日		暴力団追放郡山市民会議役員会・総会
8日		郡山市植樹祭
9日		二本松青年会議所40周年記念式典
10日		「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会
13日		第6回理事会
14日		JCIアジア太平洋会議14日～16日
16日		わんぱく相撲福島ブロック場所
17日	じゃがいもクラブ東日本地区大会	
19日	OB元気会	

	23日	スマイルサウンドカレッジ
	23日	市民総ぐるみクリーン郡山運動
	24日	第49回うねめ祭り踊り流し参加団体説明会
	24日	6月例会
	28日	被災地LOM理事長座談会
	28日	参院選公開討論会
	29日	第2回エネルギーキッズカレッジ 29日～30日
7月	1日	第7回常任理事会
	1日	肢体不自由児後援会 常任理事会並びに総会
	6日	第43回福島ブロック大会 6日～7日
	10日	郡山市市史編さん委員会
	11日	中間監査
	12日	「佐野洋子の世界」内覧会
	12日	みんなで交通事故をなくそう郡山市民大会
	13日	白河青年会議所55周年記念式典
	16日	第7回理事会
	13日	第7回理事会
	19日	第2回郡山北警察署協議会
	20日	サマーカンファレンス 20日～21日
	22日	地球にやさしい”ふくしま”県民会議県中地方会議
	18日	郡山市倫理法人会モーニングセミナー
	24日	7月例会
	25日	うねめ祭り踊り流し参加団体説明会
	27日	わんぱく相撲全国大会 27日～28日
	27日	福島青年会議所50周年記念式典
	28日	郡山音楽ボランティア響会創立10周年記念祝賀会
8月	1日	第8回常任理事会
	2日	第49回うねめ祭り 2日～3日
	7日	みんなで大空を見上げよう again
	8日	第2回郡山警察署協議会
	8日	本名徹次氏を囲む会
	12日	第8回理事会
	19日	郡山市中心市街地活性化推進委員会
	22日	郡山市原付バイクご当地ナンバープレート選考委員会
	24日	第3回エネルギーキッズカレッジ
	26日	郡山の秋祭り・子供相撲大会実行委員会
	27日	8月例会
	28日	郡山市明るい祭礼推進委員会総会
	29日	郡山市青少年問題協議会
	31日	全国大会奈良大会総決起集会
	31日	猪苗代青年会議所35周年記念式典
9月	2日	郡山芸伎組合納涼会
	4日	第9回常任理事会
	5日	「久米賞・百合子賞」読み合わせ会
	6日	東北青年フォーラム 6日～8日
	4日	郡山芸伎組合感謝の集い
	10日	県南6JCエリア会議
	11日	全国大会支援キックオフミーティング
	13日	第9回理事会
	14日	会員会議所会議
	18日	2013第二回福魂祭実行委員会
	19日	奈良公式訪問 19日～20日
	25日	郡山うねめ祭り実行委員会企画部会
	26日	9月例会並びに定時総会
	28日	郡山の秋祭り・子供相撲大会
	28日	第10回常任理事会
	29日	アカデミー委員会 オープン委員会
10月	1日	第10回常任理事会
	3日	第62回全国大会奈良大会 3日～6日
	11日	第10回理事会
	12日	しゃくなげカップ2013

	16日	「小学生の税に関する標語」審査会
	16日	第1回常任理事予定者会議並びに理事予定者会議
	17日	日本JCシニアクラブ主催企業合同説明会
	19日	FSGカレッジリーグ30周年記念式典
	20日	市民総ぐるみクリーン郡山運動
	23日	第2回OB元気会
	26日	10月例会並びに家族親睦会
	29日	第52回「久米賞・百合子賞」最終審査会
	30日	第3回郡山市市史編さん委員会
	30日	郡山市中学生美しい日本語表現コンテスト
	30日	郡山商工会議所臨時議員総会懇親会
	30日	第2回常任理事予定者会議並びに理事予定者会議
11月	1日	第11回常任理事会
	2日	郡山市地域社会相撲指導者研修会 2日～3日
	2日	子どもゆめ基金説明会
	4日	じゃがいもゴルフコンペ
	6日	国際ソロプチミスト郡山第30回チャリティーパーティー
	7日	第24回暴力根絶福島県民大会
	7日	第3回常任理事予定者会議
	6日	2013年度第三回常任理事予定者会議
	8日	郡山商工会議所女性会第26回ふれあい講演会
	9日	子どもサポート基金説明会
	9日	GBP郡山inにこにこ子ども館
	11日	県南エリア予定者会議
	12日	第10回暴力追放郡山市民大会
	13日	第11回理事会
	14日	平成25年度「小学生の税に関する標語」表彰式
	16日	第36回郡山市青少年健全育成推進大会
	19日	郡山市豊かな長寿社会いきいきふれあいの集い
	19日	第52回「久米賞・百合子賞」授賞者記者発表
	19日	第3回理事予定者会議
	20日	郡山コミュニティー放送番組審査会
	22日	ビックツリーページェント・フェスタ IN KORIYAMAオープニングセレモニー
	23日	ブロック卒業式
	24日	11月例会並びに第52回「久米賞・百合子賞」授賞式
	25日	歴代理事長を囲む会
	26日	新入会員面接
	28日	第2回臨時常任理事会並びに臨時理事会
	28日	第4回常任理事予定者会議
	30日	OB忘年会
12月	2日	安積黎明高等学校合唱部金賞受賞記念演奏会・祝賀会
	2日	第12回常任理事会
	3日	新入会員面接
	4日	第4回理事予定者会議
	6日	地区卒業式
	11日	第4回OB監査会・役員会・懇親会
	12日	東日本大震災市民総決起大会
	14日	12月臨時総会
	14日	12月例会・卒業式
	18日	安積歴史博物館理事会
	18日	議案上程セミナー
	19日	第3回「久米賞・百合子賞」実行委員会
	22日	スマイルサウンドフェスティバル・リトライ
	28日	事務局清掃
	15日	2013年度第三回理事予定者会議
	16日	郡山市総合計画審議会第3回全体会
	17日	平成24年度「郡山市植樹祭」
	18日	JCI世界会議 18日～23日
	18日	2012年度福島ブロック協議会アカデミー閉校式
	18日	2012年度福島ブロック協議会事業報告会～凜然としたふくしま創造へ～
	18日	2012年度福島ブロック協議会卒業式

	20日	東日本大震災復興市民総決起大会実行委員会【委員長・副委員長会議】
	20日	第7回PEPボールプール&砂場清掃手伝い
	23日	会員家族親睦ボウリング大会開催
	25日	11月例会並びに第51回「久米賞・百合子賞」授賞式
	28日	歴代理事長を囲む会
	29日	郡山市国民健康保険運営協議会
	30日	ビックツリーページェント・フェスタ IN KORIYAMAオープニングセレモニー
	30日	2012年度卒業証書授与式
12月	1日	OB忘年会
	3日	安積黎明高等学校合唱部金賞受賞記念演奏会・祝賀会
	3日	第12回常任理事会
	6日	2013年度第四回常任理事予定者会議
	7日	2013年新入会員候補者面接
	8日	「ラブたちなば・わが街のプロシリーズ3」講演
	8日	12月例会・卒業式
	12日	第12回理事会
	13日	2013年度第四回理事予定者会議
	14日	第4回OB監査会・役員会・懇親会
	18日	第8回PEPボールプール&砂場清掃手伝い
	19日	郡山市個人情報保護審議会
	21日	第三回久米賞百合子賞実行委員会
	22日	事務局大掃除
	27日	2013年度新入会員面接

2013年度 公益社団法人 郡山青年会議所 各委員会月別事業報告書 No.1

月	総務委員会	会員開発委員会
1月	15日 委員会の開催(第1回) 文書発送 22日 新年会の開催 37日 新年会の設営(郡山ビューホテル)	11日 委員会の開催(第1回) 25日 委員会の開催(第2回)
2月	15日 第2回委員会の開催 文書発送 25日 2月例会の開催(郡山労働福祉会館)	8日 委員会の開催(第3回) 18.19日 新入会員オリエンテーション並びに 現役会員向け会員開発セミナーの実施(室合同) 27日 会員拡大会議(第1回) 27日 委員会の開催(第4回)
3月	16日 第3回委員会の開催 文書発送 23日 3月例会の開催(郡山労働福祉会館)	7日 委員会の開催(第5回) 22日 委員会の開催(第6回)
4月	6日 第4回委員会の開催 16日 第5回委員会の開催 文書発送 26日 4月例会の開催(郡山ビューホテルアネックス)	10日 委員会の開催(第7回) 24日 会員拡大会議(第2回) 24日 委員会の開催(第8回) 26日 4月例会チェリーパーティーの開催
5月	7日 第8回委員会の開催 15日 第9回委員会の開催 文書発送 30日 6月例会の開催(郡山東部体育館)	8日 委員会の開催(第8回) 22日 委員会の開催(第9回)
6月	4日 第8回委員会の開催 15日 第9回委員会の開催 文書発送 30日 6月例会の開催(郡山東部体育館)	4日 委員会の開催(第10回) 18日 OB元気会の開催(第1回) 26日 委員会の開催(第11回)
7月	5日 第10回委員会の開催 17日 第11回委員会の開催 文書発送 26日 7月例会の開催(郡山ビューホテル)	9日 委員会の開催(第12回) 26日 7月例会の開催
8月	3日 うねめ祭り参加 6日 12回委員会の開催 7日 13回委員会の開催 文書発送 25日 8月例会の開催(視聴覚ホール)	8日 委員会の開催(第13回) 28日 会員拡大会議(第3回) 28日 委員会の開催(第14回)
9月	6日 第14回委員会の開催 18日 第15回委員会の開催 文書発送 26日 9月例会・定時総会の開催(郡山ビューホテルアネックス) 30日 奈良公式訪問の引率	1日.2日 東北青年フォーラム引率 10日 委員会の開催(第15回)
10月	5日 第16回委員会の開催 15日 第17回委員会の開催 26日 10月例会の開催(郡山ビューホテルアネックス)	4日 新入会員面接の設営(事務局) 18日 OB元気会の開催(第2回) 24日 会員拡大会議(第4回) 24日 委員会の開催(第16回)
11月	7日 第18回委員会の開催 16日 第19回委員会の開催 文書発送 25日 11月例会の開催(市民交流プラザ)	8日 新入会員面接の設営(事務局)
12月	4日 第20回委員会の開催 8日 12月例会・卒業式に開催(郡山ビューホテル) 20日 第21回委員会の開催	7日 新入会員面接の設営(事務局) 21日 委員会の開催(第17回) 27日 新入会員面接の設営(事務局)

2013年度 社団法人 郡山青年会議所 各委員会月別事業報告書 No.2

月	広報渉外委員会	まちづくり委員会
1月	11日 第1回委員会 18日 広報誌1月号の発行 26日 第2回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	10日 委員会の開催(第1回) 20日 京都会議引率 25日 委員会の開催(第2回)
2月	9日 第3回委員会 18.19日 新入会員オリエンテーション並びに 会員開発セミナーの実施(室合同) 23日 第4回委員会 25日 2月例会 随時 ホームページの企画・運営・管理	15日 委員会の開催(第3回) 27日 委員会の開催(第4回)
3月	5日 第5回委員会 15日 第6回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	6日 委員会の開催(第5回) 16日 委員会の開催(第6回)
4月	3日 第7回委員会 16日 第8回委員会 23日 第9回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	6日 委員会の開催(第7回) 16日 委員会の開催(第8回) 23日 委員会の開催(第9回)
5月	5日 第47回郡山市こどもまつり 14日 第10回委員会 15日 広報誌5月号発刊 22日 第11回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	7日 委員会の開催(第10回) 18日 委員会の開催(第11回) 24日 委員会の開催(第12回)
6月	7日 第12回委員会 18日 第13回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	7日 委員会の開催(第13回) 18日 委員会の開催(第14回) 24日 委員会の開催(第15回)
7月	9日 第14回委員会 23日 第15回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	5日 委員会の開催(第16回) 14日 ブロック大会引率 18日 委員会の開催(第17回) 26日 委員会の開催(第18回)
8月	2日 理事長対談記事取材 9日 第16回委員会 17日 広報誌8月号発刊、第17回委員会 23日 第18回委員会 25日 8月例会並びに大平貴之氏講演会 随時 ホームページの企画・運営・管理	6日 委員会の開催(第19回) 20日 委員会の開催(第20回) 30日 委員会の開催(第21回)
9月	4日 第19回委員会 20日 第20回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	6日 委員会の開催(第22回) 20日 委員会の開催(第23回) 23日 スマイル キッズ フェスティバル～笑顔をつなごう～開催
10月	4日 第21回委員会 9日 第22回委員会 11～14日 全国大会北九州大会引率 31日 第23回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	5日 委員会の開催(第24回) 16日 委員会の開催(第25回) 21日 統一清掃行動への参加 26日 10月例会の設営・朝比奈一郎氏講演会
11月	5日 第24回委員会 16日 第25回委員会 随時 ホームページの企画・運営・管理	12日 委員会の開催(第26回) 22日 委員会の開催(第27回)
12月	10日 第26回委員会 20日 広報誌12月号発刊 22日 第27回委員会	4日 委員会の開催(第28回)

2013年度 社団法人 郡山青年会議所 各委員会月別事業報告書 No.3

月	青少年教育委員会
1月	10日 委員会の開催（第1回） 19日 委員会の開催（第2回）
2月	7日 委員会の開催（第3回） 13日 第51回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置 16日 久米正雄先生・宮本百合子先生勉強会（郡山青年会議所事務局） 21日 委員会の開催（第4回）
3月	4日 久米正雄先生・宮本百合子先生墓参（瑞泉寺及び小平霊園） 6日 委員会の開催（第5回） 16日 委員会の開催（第6回） 23日 3月例会の企画、設営（労働福祉会館）
4月	6日 委員会の開催（第7回） 16日 第51回「久米賞・百合子賞」第1回実行委員会の開催（ミュージカル楽都館） 16日 委員会の開催（第8回）
5月	2日 委員会の開催（第9回） 16日 審査会初顔合わせ会（龍宮城西ノ内店） 21日 委員会の開催（第10回）
6月	2日 わんぱく相撲郡山場所開催（日本大学工学部 武道館） 6日 委員会の開催（第11回） 14日 委員会の開催（第12回） 17日 わんぱく相撲福島ブロック大会引率（会津相撲場） 22日 委員会の開催（第13回）
7月	5日 委員会の開催（第14回） 12日 委員会の開催（第15回） 17日 第1回親子でふれあいスマイルサマーキャンプの開催（青少年会館） 22～22日 サマーコンファレンス引率（パシフィコ横浜） 29日 わんぱく相撲全国大会引率（国技館）
8月	2日 委員会の開催（第16回） 8日 委員会の開催（第17回） 18～19日 第2回親子でふれあいスマイルサマーキャンプ（湖畔の村） 28日 委員会の開催（第18回）
9月	5日 第51回「久米賞・百合子賞」読み合わせ会 10日 「久米賞・百合子賞」応募締切、一次審査 12日 委員会の開催（第19回） 27日 委員会の開催（第20回）
10月	3日 第51回「久米賞・百合子賞」第2回実行委員会の開催（ミュージカル楽都館） 5日 委員会の開催（第21回） 23日 委員会の開催（第22回） 30日 第51回「久米賞・百合子賞」最終審査会の開催（龍宮城西ノ内店）
11月	7日 委員会の開催（第23回） 25日 第51回「久米賞・百合子賞」授賞式（市民交流プラザ） 25日 11月例会の企画、設営（市民交流プラザ） 29日 委員会の開催（第24回）
12月	5日 委員会の開催（第25回） 19日 委員会の開催（第26回） 21日 第51回「久米賞・百合子賞」第3回実行委員会の開催（開成山陸上競技場会議室）

2013年度 総務委員会

委員長 : 成田 英樹

副委員長 : 伊藤 実、佐藤 亘、森尾 興史

★委員会スローガン

衣 鉢 相 伝

～LOMの要となるために～

★ 事業方針

東日本大震災から多くの困難を乗り越え、市民が本当に安心して生活のできる「真の復興」を目指し、様々な運動を展開していく郡山青年会議所において、我々総務委員会は新入会員に対する確な教育指導を行い、地域のリーダーとしての自覚の下、一丸となり率先して各事業へ取り組むことが求められている。

全国大会郡山大会を経験した現役メンバーが年々減少し、経験していないメンバーが中心となっていく中で各事業を通じて諸先輩方との交流を積極的に行い、脈々と受け継がれてきた精神をメンバー一人ひとりに受継ぎ、伝えていく必要がある。

そのため、新入会員への指導教育の一つとして委員会や各事業を通じて郡山JCとしてのあるべき姿を教え伝えていく。

また本年は姉妹JCである奈良青年会議所が主管する全国大会奈良大会が開催される。この奈良大会を通じて、奈良JCとの友情・絆をより深く強いものとし、諸先輩方からの思いを受け継ぎ、何事にも率先して行動ができる人材となるよう新入会員を指導教育する。

その結果として、52年間受け継がれてきた郡山青年会議所の伝統が継承され、一人ひとりが郡山青年会議所メンバーとしての高い志の下、LOMの要として各事業を支え、郡山青年会議所が目指す「真の復興」を成し遂げるための礎となる。

★ 事業計画

〔開催月〕

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 1. 新入会員の教育・指導 | 〔通年〕 |
| 2. 例会の設営 | 〔通年〕 |
| 3. 新年会の設営 | 〔1月〕 |
| 4. 定時総会の設営 | 〔1月・9月〕 |
| 5. 7月例会の企画・設営 | 〔7月〕 |
| 6. 全国大会の引率 | 〔10月〕 |
| 7. 卒業式の企画運営 | 〔12月〕 |
| 8. 文書発送作業 | 〔毎月15日〕 |
| 9. 常任理事会、理事会等諸会議の設営と運営、その他庶務に関する業務 | |
| 10. 総会資料、会員名簿・名刺の作成 | |

1 1. 会員拡大に関する情報収集 [通年]

1 2. その他理事長所信に基づき行なう事業

★事業報告

1. 新入会員の教育・指導

1年間、新入会員へ対し委員会及び各事業を通して、郡山青年会議所のあるべき姿を教えることができた。

新入会員への教育・指導を通じて、我々スタッフも新たな学び、気づきを得る機会ができた。今後もJC運動を通じ、多くの学び、気づきを得ることで更なる成長へ結びつけて頂きたい。

2. 例会の設営

○1月例会

2013年度初めての例会であり、いつも以上に緊張感を持ち取組むことができたと思う。会務報告では各委員長より今年一年の取組み意欲が伝わる発言があり、椎根理事長の掲げる「Breakthrough～今こそ切り拓け！開拓者の精神で！～」のスローガンのもと、LOMメンバーが一丸となり取組んでいく意気込みを改めて感じる事ができた。総務委員会としても新入会員を含め一致団結し、LOMをしっかりと支え郡山青年会議所の要として取組んでいかなければならないと改めて強く意識した。

○2月例会

原正夫市長による講演に続き、原正夫市長、川前光徳市議、佐藤徹哉市議、菊池信太郎先輩をパネリストにお迎えしてのパネルディスカッションと非常に内容の充実した講演会であり、郡山の未来、子どもたちの健全な成長に必要な環境等、今後、我々が取組むべき方向性へのヒントを得ることが出来た。今回の講演会で得た新たな気づき、学びを今後のJC運動にしっかりと反映させていかなければならない。また、今回の例会から新入会員が主体となり設営を担当した。不慣れなため、なかなかスムーズな対応はできなかったが、メンバーの皆さまのご協力により2月例会を終了することができた。今後、反省点をしっかりと確認し、より良い結果を出せるように総務一丸となり取り組んでいかなければならないと実感した。

○3月例会

佐藤三郎氏をお迎えして、講演会とグループディスカッションという2部構成で行われた3月例会であった。講演会においては佐藤氏のワンステップフェスティバルへ懸けた思いを改めて強く感じる事ができ、我々の事業と多くの共通点を見出すことができた。また、講演会後に行われたグループディスカッションでは、各グループとも活発な意見を出し合い、その中において新たな気づき、学びを得ることができ非常に有意義な時間であったと確信した例会であった。新入会員の出席が少なく非常に残念な結果だったが、欠席したメンバーとの情報共有を図り、今後の事業に有効活用していきたいと実感した。

○4月例会

本年の4月例会・チェリーパーティーは、事前のご依頼、お声掛けにより多くの現役メンバーに参加していただき盛大に開催することができた。新入会員を含め、現役メンバーはOB会員の皆さまから今後のJC運動に有効な多くのアドバイス等を頂き、交流を深めることができた。また、本年は各委員会

のPRタイムを設ける等の工夫を行い、現役のJC運動をOB会員の皆さまへ発信することもできた。

○5月例会

5月例会は残念ながらメンバーの出席率が低い結果であった。土曜日かつ早い時間での開催であったことが一つの要因であったと思われるため、今後の参考として取組む必要があると考える。また、総務委員会としてもメンバーの出席率を向上させる工夫を取り入れ対応していく必要があると考える。講演会では、中学生を主な対象とした事業であったが、中学生に限らず幅広い年齢層の方にお越しいただくことができた。特に講師である榎本先生のお話を聞く中学生が真剣な眼差しでメモを取っている姿が非常に印象的であった。

実際に講演会を聴講し、更に多くの中学生に聞いて欲しい内容だったと正直感じる結果であった。参加者にとってより魅力的な講演会となるような工夫も必要であったと反省する結果となった。

○6月例会

早い時間からの例会であったが本年2回目の労働福祉会館での例会であり新入会員も段取りよく事前準備及びリハーサルが行え、スムーズな例会運営が確保できた。また、新名史典先生による講演会では聞き手に対し、物事を正確かつ分かりやすく発信し、聞き手が魅力を感じるプレゼンテーションの重要性を学ぶことができ、今後のJC運動並びに仕事面において有効活用できる内容であった。

○7月例会

新入会員が初めて主体となり、企画、設営を行った7月例会であった。7月例会は次年度理事長予定者が発表になる重要な例会であり、その点を踏まえた設営が非常に重要となる。そのため総務委員会が一丸となり7月例会開催まで間、新入会員の意見を尊重しつつ、総務スタッフが的確なアドバイスを行い綿密な計画を立て取組んできた。その結果として、例会、スポーツ、会員親睦会と多くの現役メンバーの皆さまに参加して頂き開催することができ、本例会の主旨であるメンバー同士の更なるコミュニケーションを図る事ができた。

7月例会の開催によって得ることができた新たな学び、気づきを今後にも有効活用して行き、その集大成を12月例会において発表できるよう総務委員会一丸となり取組んで行かなければならないと実感した例会であった。

○8月例会

8月例会は、今年3回目となる労働福祉会館を会場として、郡山青年会議所OBである佐久間啓先生を講師としてお迎えしての例会及び講演会であった。過去に使用した会場でもあり、設営も大きな問題も無くスムーズに行き、オンタイムでの運営が確保できた。佐久間先生による講演会では、子供たちの心の成長や精神障害、身体障害を抱える子供たちを社会へ送出すために我々大人が考えていかなければならないことを中心にご講演頂いた。また、佐久間先生の様々な取組みについての紹介もあり、青年経済人として学ぶべきことが多く、今後のJC運動等においても大変役立つ講演会であった。

○9月例会

公益社団法人移行後、初の9月定時総会であり、多くの先輩方にご出席頂き盛大に開催する事ができたが、更に努力をして現役会員の出席を増やし、より盛大な定時総会としたかった。この点はしっかりと反省して、次回以降、確実に取組まなければならない点であると考え。例会部分においては、新入

会員による設営も非常にスムーズに行う事ができ、ほぼオンタイムでの例会であった。次年度である2014年度役員紹介も行われ、二瓶次年度理事長予定者から次年度体制へ向けての力強い挨拶があり、現役メンバーが一丸となり取組んでいかなければならないことを再認識する有意義な機会となった。

○10月例会

委員会メンバーによるコーラス、タップダンスショー、ゴスペルコンサート等と音楽に溢れた例会であり、音楽のまち創造委員会の皆さんのおもてなしの心をしっかりと感じることでできた設営であり、非常に楽しい時間を有意義に過ごす事ができた例会であった。

新入会員による設営も非常にスムーズに行う事ができ、オンタイムでの例会であったが、会務報告、出向者報告では、時間調整のため報告者の皆さんにいつもよりも長く時間を取って頂き、報告をして頂く結果となった。

参加員数に関して、メンバーの参加が少なかった点が非常に悔やまれる。家族例会であり、メンバーとその家族とのコミュニケーションを図ることができる数少ない機会であったため、その意義をしっかりと含め事前の参加依頼を確実に取組む必要があったと反省する結果となった。

○11月例会

使用頻度が少ない安積歴史博物館を会場として開催された11月例会であったが、スムーズな準備対応ができ、ほぼオンタイムでの設営を確保することができた。石崎洋司先生の講演会では、小説の書き方、特に文書表現上のポイントについて実際に受賞者の作品を例に取り、その表現方法について丁寧に説明をして頂き、非常に分かりやすく、学ぶことができた。参加した中学生の皆さんも有意義な機会となったと思う。実際に石崎先生の講演を聞き、表現方法について勉強になり我々も参考になる点が多々あった。

○12月例会

例会では椎根理事長及び各委員会、出向者の皆さまから1年間のまとめの報告を頂いた。また、歴代理事長の皆さまに参加頂き、二瓶次年度理事長へのプレジデンシャルリース伝達も滞りなく終える事ができ、二瓶次年度から2014年に向けた力強い意気込みもお伝え頂くことができた。卒業式では、川口委員、滝田監事、伊藤筆頭副委員長から今まで取組んでこられたJC運動に対する思いを述べて頂き、その熱い思いを改めて認識させて頂くことができ、今後も現役メンバー一同しっかりと取組んで行かなければならないと再確認する機会を得る事ができた。送別会においては新入会員が中心となり対応したが、皆さまのご協力により、盛大に行なうことができた。臨時総会から送別会、二次会と大変長丁場の一日であったが、皆さまのご協力により大きな問題も無く終了する事ができた。2013年の総くりとなる12月例会卒業式、1年間取組んできた総まとめであり、我々総務委員会の集大成であった。

3. 新年会の設営

多くのご来賓をお迎えし、2013年度椎根理事長体制を対外的に発信することができ、ご来賓の皆様が本年のスローガンである「Breakthrough～今こそ切り拓け！開拓者の精神で！～」を感じ取って頂くことが出来たと思う。また、設営面においても郡山青年会議所のおもてなしの心をご来賓の皆様にご披露することが出来たと思う。新入会員にとっては、初めての経験となったが、この新年会で得た新たな「気づき」、「学び」を今後のJC運動に活かして欲しいと実感した。

4. 定時総会の設営

1月定時総会

椎根健雄議長、葛西秀一郎副議長のもと開催された1月定時総会ではメンバーの皆さんのご協力によりスムーズな議事進行ができ、2012年度決算、2013年度予算等の重要な議案が無事可決された。総会資料の作成に時間を費やす結果となったため、早い段階から資料の作成等事前準備に取りかかる必要性を実感した。

9月定時総会

武田伸一議長、石井朋之副議長のもと開催された9月定時総会では、メンバーの皆さまのご協力により非常にスムーズな議事進行が行われ、2013年度補正予算（案）、2014年度役員選任（案）、2014年度監事選任（案）の全ての議案が無事に承認される結果となった。

5. 全国大会の引率

姉妹JCである（一社）奈良青年会議所が長年の思いを込め、主管し開催された第62回全国大会奈良大会に副主管として携わり、参加した一人ひとりのメンバーが多く気づき、学びを得ることができたと思う。第55回全国大会郡山大会を経験していない現役メンバーにとっては副主管という立場で全国大会を体感することができ今後のJC運動に非常に意味深い物となったと思われる。ブース設営においては、郡山市から郡山シティーセールス事業として認定して頂くことができ様々な支援を受けることができた。郡山JCブースではこおりやまグリーンカレー、うねめジャーキーを提供すると共に郡山市のイメージキャラクターである、がくとくん、おんぷちゃんも有効活用し、全国から集ったJCメンバーに対し、郡山JC並びに郡山市を最大限PRすることができた。

6. 文書発送作業

毎月15日を基本として現役会員、OB会員に事業案内等の文書、広報誌等を発送した。

7. 常任理事会、理事会等諸会議の設営と運営、その他庶務に関する業務

毎月開催された常任理事会、理事会の議事録作成、会議の設営を行なった。

8. 総会資料、会員名簿・名刺の作成

定時総会、臨時総会、会員名簿、名刺の作成を行なった。本年は公益社団法人以降に伴い名簿の発刊が3月となった。

9. その他理事長所信に基づき行なう事業

ふくしまフェスティバル

郡山青年会議所は共催として本事業へ参加したが、椎根理事長が運営委員長となり中心的な役割を担う形での事業となった。人材交流機構、郡山商工会議所、商工会議所青年部等多くの他団体と連携しての取組みとなり、多くの「学び」、「気づき」を得ることができたと共に他団体との調整の難しさを改めて実感することができた。特に郡山JCが対応した各祭り参加者のアテンドは、郡山JCだからこそ担いを全うできたと確信している。

各メンバーがおもてなしの精神を忘れず対応して頂けたため、参加された多くの皆様から感謝の言葉を頂けた。この事業の開催により郡山に元気を取り戻す一助となったことは、沿道に駆けつけた多くの市民の笑顔で満ち溢れた姿からも明らかであり、本事業の成功を感じる事ができた。

全国大会奈良大会総決起集会

総決起集会では、幾多の困難を乗り越え、奈良JCが全国大会の主管を勝ち取るまで取組んでこられた映像が流され、今大会にける奈良JCの意気込みをしっかりと感じることができ、出席者一同、全国大会本番へ向け共通認識を持つ非常に有意義な機会となった。

また、ブース出店では、こおりやまグリーンカレーを提供し、出席者からも非常に好評であった。奈良JCメンバーとともに協力してこおりやまグリーンカレーを配膳することもでき、郡山JCのおもてなしの心を表す事もできたと思う。姉妹JCとして、副主管締結LOMとして奈良JCをしっかりとサポートし、全国大会本番へ向けメンバーが一丸となる総決起集会となった。

衣鉢相伝～LOMの要となるために～のスローガンのもと、52年間の長きに渡り脈々と受け継がれてきた郡山青年会議所の精神を新入会員へ教え伝えることを年頭に総務委員会一丸となり全力で取組んで参りました。新入会員と共に歩み、多くの気づき・学びを得る事ができ共に成長することができた1年間となりました。あつという間の1年間ではありましたが、JC運動を通じて取組んできた内容は濃く、充実した1年間となりました。振り返ってみると伊藤実筆頭副委員長、佐藤亘副委員長、森尾興史副委員長、鈴木茂リーダー、増子陽リーダーに支えられ、どうにかこうにか1年間を全うすることができたと改めて実感しております。椎根理事長、大谷専務、私を総務委員長に指名して頂き、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。この1年、貴重な体験ができ本当に有意義であり、この経験は私の財産となりました。総務委員会の集大成となった12月例会卒業式では、新入会員を中心に総務委員会の思いが一つとなり4名のご卒業生を送出す事ができました。皆さまから多くの賛辞を頂き、本当に総務委員長冥利であります。総務委員会の皆さん本当に感謝しています。

佐藤拓也君、鈴木純一君、村上和洋君、渡邊万里子君、佐藤怜君、芝田銀平君、金山慶一君、柳沼勝恵君、籠島大介君、佐藤栄作君、二瓶貴之君、森合政信君、藤原佳央里君、皆で一年間取組んでこられたことに感謝しています。13総務委員会で出会えたことに改めて感謝致します。

最後となりますが、いつもご協力・ご支援頂きました現役メンバーの皆さま、OB会員の皆さま、事務局 菊地さん、1年間大変お世話になりありがとうございました。

2013年度 会員拡大 委員会

委員長 増子 則満

副委員長 石津 幸司

★委員会スローガン

EXPANSION!

～想いを一つに、輪を拡げよう～

★ 事業方針

我々はJC運動を通じ市民と共に真の復興へ向け一歩ずつ歩み始めている。しかし、近年会員数は減少傾向にあり、郡山JCの運動を継続し市民一人ひとりの笑顔を広げていくために会員拡大及び会員の資質向上が重要になってくる。

会員拡大に関して、多くの事業を会員拡大の機会と捉え郡山JCの運動を、JCセールスマンとして多くの市民に伝え拡大のきっかけとする。そして、会員拡大会議や各委員会会議に参加をすることにより、候補者情報を集めると共に、勧誘時に使用するツール等を検証し会員拡大に繋げる。また、4月例会、OB元気会を通し先輩諸兄が郡山JC運動に取り組んできた想いや、歩んできた道のりを現役会員の共通認識とし、その中でも本年開催される全国会員大会奈良大会へ向けてOBの皆様と共に郡山大会を振り返り、奈良JC支援へと繋げる。会員開発として、組織内での役割等に関するセミナーを開き現役会員のJC運動また各企業運営の一助となる例会を企画運営し会員の資質向上を図る。

現役会員の資質向上を図り、また、OBの皆様と交流を深めることによりJC運動への取り組みを向上させ、そして、多くの市民にJC運動を伝え、共に支え援けあえる仲間を増やすことにより、市民一人ひとりの笑顔を広げ真の復興を成し遂げるJC運動への発展へ繋げる。

★ 事業計画 [開催月]

1. 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向け会員開発 [2月]
セミナーの実施 (室合同)
2. 4月例会チェリーパーティーの企画運営 [4月]
3. 6月例会の企画運営 [6月]
4. サマーコンファレンスへの引率 [7月]
5. OBとの交流会 [通 年]
6. 会員拡大に関する情報収集 [通 年]
7. その他理事長所信に基づき行なう事業 [通 年]

参考：会員募集スケジュール

月	会員拡大実行内容
2012. 12月	12年度会員開発委員会リスト精査
2013. 1月	個別目標設定・各委員会への紹介ご依頼

2月	リスト作成
3月	リスト作成&個別面談
4月	リスト作成&個別面談
5月	リスト作成&個別面談
6月	リスト作成&個別面談
7月	個別面談・説明会準備
8月	個別面談・面接実行
9月	個別面談・面接実行
10月	個別面談・面接実行
11月	説明会実施・面接実行
12月	説明会実施・面接実行

★ 事業報告

1. 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向け会員開発セミナーの実施（室合同）

人間力開発セミナーでは、川前 光徳OBをお迎えし、「真の復興」とはどのような事なのかを御講演頂きました。能力開発セミナーでは、委員会メンバーが講師を務め体や気持ちの緊張を解きほぐすアイスブレイキングを行いヘリウムリンにてチームとして成果に向かうことの重要性を学ぶ事ができました。居酒屋の亭主の皆様には、復興にご尽力されている先輩をお呼びし郡山JC現役時代に事業を通して得た経験をどのように現在の復興に活かされているのかをお話しいただきました。今年の新入会員の勉強の場となり今後のJC運動の糧となった事業にすることができたと思います。

2. 4月例会チェリーパーティーの企画運営

チェリーパーティーでは、花見の気分味わっていただけるように会場の2カ所に桜の樹をイメージできる桜を置き乾杯時には桜の花びらを浮かべた食前酒を用意し本年度の各委員会の事業内容を特別会員に理解してもらうためPRタイムをもうけました。また、桜にちなんだデザート「八重ロール」を振舞い、本年姉妹JCである奈良JCの全国大会奈良大会をPRする映像を上映しなら支援にも繋げる場とし盛況に開催することができました。

3. 6月例会の企画運営

私達個人はその組織の中で各々役割をもって活動し組織を動かしていく為にもプレゼンテーション力を高め組織の在り方を学び会員の一人ひとりにスキルアップしていただくために「株式会社Smart Present 代表取締役 新名 史典氏」をお招きし人と組織を動かせるプレゼンテーション力についてご講演頂きました。現役会員だけでなくOB会員や新入会員候補者へも参加を呼びかけ共に自己啓発そしてスキルアップの機会となったと思います。

4. サマーコンファレンスへの引率

サマーコンファレンスに多くの会員の皆様に参加していただきありがとうございました。公益社団法人日本青年会議所の考え方や方向性に対する認識を深めることができ我々郡山青年会議所が真の復興に向けて、郡山の新しい希望となる一助とすることができたと思います。また、姉妹JCである（一社）奈良青年会議所が本年度開催される全国大会奈良大会を主管するにあたり、2006年郡山大会で受け

た支援に報いるためにPR等をお手伝いし奈良支援へ繋げることができたと思います。

5. OBとの交流会

本年は、OB元気会として2回開催させていただきました。(1回目：～平成3年入会・2回目：平成4年入会～) 昨年同様に2回の開催となりましたが、多くのOBの皆様にご参加いただくことができました。全国大会奈良大会支援に繋がられるよう1回目には郡山大会の映像や2回目では奈良大会のダイジェスト映像を上映いたしました。また、新入会員候補者リストをお渡しし候補者の情報の共有化の場とすることもできたと思います。

6. 会員拡大に関する情報収集

7. その他理事長所信に基づき行なう事業

本年は新たに郡山市長選公開討論会を担当させていただきました。ブロック主催で行った事業ではありませんでしたが各団体の方々と協議を進めながら実施できた事業でした。会員拡大委員会は例年他団体との連携があまりない委員会でしたので、良い経験を得たと思います。そして、会員拡大委員会の目的の一つでもある会員拡大に関して、年頭に25名を目標に掲げ運動してきましたが5名入会という結果となってしまいました。本年は、昨年同様に会員拡大会議・候補者リストの充実やフェイスブックだけではなくメーリング等を活用した情報の共有化を図りながら活動してまいりましたが目標には遙かに届かず大変申し訳ございませんでした。会員拡大事業はJCが存続する限り継続される事業ですので、今後は会員一人ひとりが会員拡大についての高い意識を持つ必要があると改めて感じました。また、早い段階での候補者リストの拡充・迅速な行動そしてチームでの行動が必要不可欠となってくると思います。今回、多くのOBの皆様からご助言や同行いただきJCに対する想いをお聞きすることもできましたし、現役会員の皆様にも同行いただきご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。

本年の委員会スローガンである「EXPANSION!～想いを一つに、輪を拡げよう～」もと石津副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様を支えられ一年間大変貴重な経験をさせていただきました。一年間ありがとうございました。

2013年度 広報渉外 委員会

委員長 阿久津 圭亮

副委員長 橋本 裕

★委員会スローガン

しんとう

滲透

～より広く深く J C を伝えよう～

★ 事業方針

郡山は、東日本大震災の被害から物質的な復旧は進みつつあるものの、真の復興への道のりはまだ遠い。郡山青年会議所が「真の復興」へ向けて運動を展開していくには、市民・行政・各種団体との連携及び会員拡大が必要不可欠である。そのためには郡山青年会議所の存在を広く世に発信し、多くの人々に J C 運動への理解を深めてもらわなければならない。

手段としては、ホームページ並びに広報誌を活用し、迅速かつ分かり易い情報の発信に努めると共に、その他の効果的な広報手段について考え、実践する。L O M 内においては、メーリングリストや委員会ブログ、リアルタイムで情報を発信できる Facebook を活用し、メンバー間での情報の共有化・団結力の更なる強化を図る。また、「久米賞・百合子賞」については、50年以上の歴史と伝統を引き継ぐと同時に、これまでの手法を検証し、さらに発展させる。特に広報に力を入れることで、より多くの青少年が文学への造詣を深められる「久米賞・百合子賞」を築きあげる。

情報の発信と共有を通し、団結した会員一人ひとりが一流の J C セールスマンとなることで、J C 運動を一般市民に滲透させ、真の復興へ向けて希望の道を切り拓いていく。

★ 事業計画

1. 新入会員オリエンテーション並びに
現役会員向け会員開発セミナーの実施（室合同） [2月]
2. 第52回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置 [2月]
3. 久米正雄先生・宮本百合子先生墓参 [3月]
4. 5月例会の企画運営 [5月]
5. 奈良来訪・うねめ祭り参加 [8月]
6. 奈良公式訪問 [9月]
7. 久米賞・百合子賞授賞式 [11月]
8. 11月例会の企画運営 [11月]
9. 広報誌発行 [1月、5月、8月、12月]

- | | |
|-------------------------|------|
| 10. ホームページ作成、運営管理 | 〔通年〕 |
| 11. メールアドレス、メーリングリストの管理 | 〔通年〕 |
| 12. LOM事業の取材 | 〔通年〕 |
| 13. 会員拡大に関する情報収集 | 〔通年〕 |
| 14. その他理事長所信に基づき行なう事業 | |

★事業報告

1. 新入会員オリエンテーション並びに現役会員向け会員開発セミナーの実施（室合同）

今年度のオリエンテーションは、各委員会ごとに工夫を凝らした委員会紹介、会員拡大委員会のメンバー自身が能力開発セミナーの進行役を務めるなど、新たな試みが盛り込まれました。結果的に新入会員の皆さまにJCという組織の奥深さを知っていただく機会となりました。

2. 第52回「久米賞・百合子賞」実行委員会の設置

郡山青年会議所が草創期より行ってきた事業を、初めて広報渉外委員会が担当するということでプレッシャーもありましたが、メンバーの皆さまのご協力もあり、無事終了することができました。

5月例会講演会との連動、参加者に対してのアンケート、広報誌8月号においての郡山出身の作家、古川日出男先生との理事長対談、授賞式講演会では小学生にも人気がある石崎洋司先生を招いたことで、「久米賞・百合子賞」の更なる50年に向けての発展に繋げることができたと思います。

3. 久米正雄先生・宮本百合子先生墓参

今回、墓参に関しては宮本百合子先生の作品「この夏」に登場する明月院の見学を加えた。勉強会においても、こちらから参考資料を提案し、講師に「この夏」について取り上げていただくなど、例年とは違った試みができた。それに伴い、スケジュールも例年とは全く異なるものとなったが、入念に現地調査することにより、余裕のある行動ができた。久米正雄先生・宮本百合子先生の作品を理解する一助となったと思う。それだけに参加者が少なかったことが残念であった。ご依頼の際、特に新入会員に対して、郡山青年会議所が50年以上の歴史を持つ事業であること、事業としての重要性をしっかりと説明するべきだった。

4. 5月例会の企画運営

「久米賞・百合子賞」と連動させ、専門学校や私塾で小説の書き方を教えている榎本秋先生を招き「物語を紡いで文章を書いてみよう」という演題でご講演いただいた。残念ながら本来の対象者である中学生の参加者は多くはなかったが、専門学校の生徒さんから年配の方まで、様々な年代の方が参加された。皆、真剣な様子で講演に聞き入りメモをとっていたのが印象的だった。郡山市全体の文学が活気づくことで、結果的に「久米賞・百合子賞」の発展につながった。

5. 奈良来訪・うねめ祭り参加

全国大会の準備でご多忙にも関わらず、今年度も多くの奈良青年会議所メンバーの皆さまにお越し頂いた。ともに踊り流しに参加することでうねめ祭りを盛り上げることができた。特に、近年は男性参加者が減少している傾向にあるので、男性参加者の増加という面でも祭りに貢献できた。エクスカーショ

ンにおいては、大河ドラマ「八重の桜 大河ドラマ館」「鶴ヶ城」を中心に、福島の文化や観光地としての魅力を再認識していただくことができた。

懇親会でのアトラクションも好評だった。担当された総務委員会の皆さまに改めて感謝申し上げます。互いに親睦を深めることで、全国大会奈良大会を支援するという郡山J.Cの意思を表明することにもなった。

6. 奈良公式訪問

全国大会奈良大会の直前という、奈良J.Cの皆さんにとって非常に多忙な時期であるにも関わらず、手厚く歓迎していただいた。共に奈良の采女神社例祭に参加し、お祭りを盛り上げ、お互いの文化を知ることによって交流を深めてきた。また副主管LOMとして、全国大会奈良大会に協力を惜しまないという気概を見せることが出来た。

7. 久米賞・百合子賞授賞式

8. 11月例会の企画運営

今回は、久米正雄先生が通った学び舎であり、震災後の補修工事を終えた「安積歴史博物館」を会場とした。

気候を考え、業務用のヒーターのレンタル、トイレが屋外になるためサンダルを用意、駐車スペースが少ないので、近隣のOB会員にご協力いただくなど設営を工夫した。

受賞者のスピーチを聞くことで、「久米賞・百合子賞」の重要性を改めて実感する機会となった。講演会では児童文学作家の石崎洋司先生からお話をいただいた。講演会后、参加者からサインや写真撮影を求められ、気さくに応じている姿が印象的であった。1年を通じて多くの関係者に協力いただき、無事に授賞式までたどり着けたことに心から感謝申し上げます。

9. 広報誌発行

本年の広報誌は「Break through～今こそ切り拓け！開拓者の精神で！」のスローガンのもと「Break through」

と題し、(公社)郡山青年会議所の活動を発信してきた。8月号理事長対談では、郡山出身の小説家で郡山でのイベント「ただようまなびや」を企画している古川日出男先生と久米正雄記念館(旧久米邸)で対談を行なった。椎根理事長とは「大の音楽好き」という共通点があり、非常にユニークな内容となった。

新たな配布先として中町立体駐車場に置かせてもらえることとなった。また、古川日出男先生の繋がりで8月

号を「ただようまなびや」の会場で配布し、好評であった。

広報誌を通じて市民の皆さんへ郡山J.Cを身近な存在と感じていただける一助とすることができた。

10. ホームページ作成、運営管理

ホームページ作成に関しては知識があるメンバーが少なく更新が滞ることもあったが、知識のあるメンバーからアドバイスいただき、運営していくことができた。また、アクセス数が例年の2倍以上となった。理由としてはFacebookとの連携、「スマイルサウンドフェスティバル」「久米賞・百合子賞」など多くの事業が注目されたことが予想される。

1 1. メールアドレス、メーリングリストの管理

現役メンバーのメールアドレス管理及びメーリングリストの管理を行なった。特別、問題はなかったが、時折メールアドレスの変更を申請しないため連絡が滞る者、個人的な内容を全体メーリングに返信するなどの誤送信があった。

1 2. LOM事業の取材

全ての事業に参加し、事業内容の取材、写真撮影、Facebook を利用したリアルタイムでの情報公開など広報活動を実施した。

1 3. 会員拡大に関する情報収集

広報誌に会員募集の記事を掲載、ホームページにも会員募集のページを設置し、会員拡大につながる取り組みを行った。

1 4. その他理事長所信に基づき行なう事業

常に「Breakthrough」を念頭に置き、広報誌、ホームページなどに新しい要素を取り入れるよう心掛けました。

また、2013年度は郡山JCが草創期より続けている事業「久米賞・百合子賞」を初めて広報渉外委員会が担当するという事で、当初は委員会内で戸惑っているメンバーも少なくありませんでしたが、皆が50年以上続く「久米賞・百合子賞」の意義を考え、自分たちならではの「久米賞・百合子賞」を目指し、模索し続けてきた一年でした。

今年度、私を広報渉外委員会委員長に任命するだけでなく「久米賞・百合子賞」実行委員会事務局長という大役を与えて下さった椎根聡人理事長に、心から御礼申し上げます。

2013年度 音楽のまち創造 委員会

委員長 大槻 俊介

副委員長 棚木 敏彦

★ 委員会スローガン

感じよう！音楽の力！！

～楽都郡山の更なる発展を目指して～

★ 事業方針

我々は、いつ、どこにいても、音楽を耳にしない日はない。好きな音楽を聴き、笑い、癒され、時には涙する。音楽は人々の五感を刺激し、心に豊かさを与える。豊かな心を持つ事で、人々は勇気や創造力を得る事が出来る。このように、音楽が人々に与える影響力は、計り知れないものがある。震災後、街並みや道路は以前の形に戻りつつあるが、風評被害による農業や観光業、商業等への悪影響が強く、多くの人々が笑顔を失ったままである。今こそ、この閉塞された現状を打破すべく、福島県最大都市圏且つ音楽都市宣言をした郡山から音楽の力で、真の復興と言える心の復興を目指す運動をより一層展開していく時である。

音楽の力を一人でも多くの市民に体感し、勇気や希望を共有してもらう為に、市民が一堂に会し様々なジャンルの音楽を楽しむ事が出来る大音楽祭を開催する。出演者にも郡山市民の多数の参加を募り、プレイヤー、オーディエンス全ての人々が一体となって音楽を楽しめる場を提供する。また、多数の若者に協力を仰ぐ事で、郡山の次世代を見据えたまちの活性化に繋がると共に、我々の運動を親しみ易い形で理解してもらい、今後の運動にも積極的に興味を持ってもらうきっかけとする。

老若男女全ての人々が様々なジャンルの音楽を楽しめる環境を創る事が、これまで市民と共に歩んできた「楽都郡山」としての更なる発展の礎となる。そして、音楽を通じて笑顔になり、勇気や希望を持ち活力豊かな人々がまちに溢れる事が、真の復興に繋がり、明るい豊かな郡山を創造していく。

★ 事業計画	〔開催月〕
1. 京都会議引率	〔 1月〕
2. 3月例会企画運営	〔 3月〕
3. 市民音楽祭PR事業企画運営	〔 6月〕
4. ブロック大会引率	〔 7月〕
5. 市民音楽祭企画運営	〔 9月〕
6. 10月例会企画運営	〔10月〕
7. 会員拡大に関する情報収集	〔通年〕
8. その他理事長所信に基づき行なう事業	

★ 事業報告

1. 京都会議引率

2013年度のスタートとなる京都会議に参加し公益社団法人日本青年会議所の方向性を認識するとともに、小畑宏介会頭の所信を直接聞くことにより、青年会議所メンバーとしての自覚と気概を高める事が出来た。新入会員には、JC運動の基本と活動内容を理解してもらい、メンバーや同期との一体感・親近感を深めてもらう事も出来た。イレギュラーな部分も多々あり、設営でご迷惑をおかけした点もあったと思うが参加、そしてご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

2. 夢を開く心の扉 桜 color プロジェクト

GReeeN と共に共通の想いを、広く市民に伝播する事が十分に出来た。また、我々の運動も各メディアを通じて広く発信する事ができ、非常に充実した事業であった。旅立ちの想いを述べた和田明莉さんの文章は、まさに今後の郡山を明るく照らす灯となったと思う。ご協力いただいたOBの先輩、そして全ての現役会員に感謝申し上げます。

3. 3月例会企画運営

開成山公園で開催された、日本の音楽史に残る野外フェス「ワンステップフェスティバル」の当時の様子や、開催に至るまでの経緯を学ぶことができた。どんな苦難にも立ち向かってきた講師の想いは、我々が今後おおきな壁にぶつかる時にこそ生きる、けっして忘れてはいけない思いあると感じた。また委員会ディスカッションでは、各委員会が夢を持ち、積極的にディスカッションする様子が伝わり非常に有意義であった。当委員会の初担当例会であり、至らぬ点もあったが、現役会員の多くの支援により無事に終了する事が出来た。参加、協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

4. 市民音楽祭 PR 事業 (SMILE SOUND COLLEGE)

軽音楽を愛する若者に大きな夢と希望、感動を存分に与えることが出来た事業だったと思う。何より参加者の「夢みたい」や「今日で郡山が好きになった」などの言葉が何より心に響いた。高橋宏貴氏の全面協力により実現した今回の事業だが、郡山青年会議所が築き上げてきた歴史と影響力が背景にある事は間違いないと思う。そして我々会員も事業を通じて夢をあきらめないことの大切さを学ぶ事が出来た。のちに控えていたSMILE SOUND FESTIVALの布石としてとてもよい事業になったと思う。参加、協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

5. ブロック大会引率

ブロック大会当日は生憎の雨となってしまったが、LOMメンバーの皆様のご協力によりスムーズな引率が出来た。県内各LOMのメンバーと交流を深め情報交換をする事で、同じブロック協議会の一員であることを再認識し同じ想いで今後のJC運動を展開する意識共有が出来た。またグリーンカレーブースも大盛況で完売したのは、LOMメンバーの皆様のご協力があったのものだった。カレーを販売する為に参加したLOMメンバーが委員会問わず大きな声で売り子をする様子は、今後の郡山JCの素晴らしい未来を連想させたと思う。改めて感謝申し上げます。

6. 市民音楽祭企画運営 (FUKUSHIMA SMILE SOUND FESTIVAL 2013 ~REVIVAL~)

委員会メンバーと、全ては市民が望むような、求められている形を追求し続けてきた。台風が迫る中

設営を進める毎日は本当に言葉もない日々だった。開催にあたり現役会員の皆様だけでなく特別会員の皆様、そして外部団体の皆様と非常に多くの方々にご協力いただいた。本当に感謝申し上げます。しかし、何度考え直しても、一度失敗した今でも、同じ状況であれば私は屋外で開催する事を選択する。それが今この福島で、日本中、世界中にむけて発信すべき事だと考えている。この一年間、この事業を通して私自身、そして委員会メンバーも大変な労力と時間を費やし成長する事が出来た。きっとこの経験は今後の青年会議所運動に大きく活かされる事と確信している。ただ、青年会議所運動の本質は地域の為に、市民の為にであるからには開催する事が出来なかったのは残念である。郡山青年会議所現役会員の皆様、そして特別会員の皆様、そして関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

7. 10月例会企画運営

参加されたご家族の方からも楽しかった、また来たいとの声をいただく事ができ、非常によかった。一方、家族に日頃の感謝を伝えるという本来の趣旨は思うように伝えきれなかったとも感じている。日頃の感謝を込めてご家族に料理をサーブする、飲み物を注ぐなどの行動をメンバーの皆様が率先するよう働きかけをすべきであったと反省している。一昔前の郡山青年会議所は、活動資金も豊富で素晴らしいクリスマス会や家族会が開催されていたことは、今回家族会を担当したことで学ぶことが出来た。しかし現在の会員数、活動資金とのバランスを考えるとともに、家族会を開催するにあたって趣旨と手法をどれだけ特化する必要があったかを改めて感じている。開催にあたり多くの方にアドバイスやご協力いただいたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

8. 市民音楽祭企画運営 (FUKUSHIMA SMILE SOUND FESTIVAL 2013 Retry)

9月16日の台風直撃を受け中止としたスマフェスを、このような形で開催させていただけた事に、非常に感謝している。参加者や来場者が笑顔でライブを楽しむ姿、がくとくんバンドに驚く様子は非常に嬉しい事であり、そして音楽都市郡山の更なる発展の一助と出来たと感じている。当日の寒い中、お手伝いいただいたメンバーには本当に感謝している。大きな声でスマフェスのPRをしていただき、多くの市民を会場に誘導していただいた。今年度のBreakthroughから次年度の絆へと私自身この事業を通してLOMの絆を感じる事が出来た。当日ご協力いただいた皆様、そして議案作成段階からご協力いただいた皆様、LOMメンバーや特別会員の皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2013年度 明るい青少年育成 委員会

委員長 青木 誠

副委員長 増子 卓矢

★委員会スローガン

未来 with スマイル

～笑顔の輪を広め、明るい未来を開拓しよう！～

★事業方針

未曾有の大震災から二年が経とうとしている中、子どもたちも大震災による負の部分に負けず、明るい未来を期待し生活している。しかし一方で、エネルギー資源についての問題が他人事のように捉えられ、政治に対しての無関心が市民の間に広がっている。子どもたちの明るい未来創造のためには、それらについて考え、学んでいく場が求められる。その明るい未来を探求していく中で生まれてくる笑顔を更に広め、守っていくことが必要となってくる。

そのためには、自然や文化を体感できる事業だけでなく、産学官との有機的な連携を図っていく。そして、エネルギーや政治をはじめとする社会の現状や未来の展望について学ぶ機会を設けていくことで、それらに興味を持ってもらい、子どもたちの将来の可能性を引き出していく。その学び舎の中で仲間との絆を深め、更には親子の絆の大切さも発信していく。また、これまで継続されてきた青少年事業のノウハウを活かし、遊びやスポーツを通じた事業を展開していく。

それらの結果、市民に笑顔の輪が広がり、子どもたちの明るい未来を開拓していくことができる。

★事業計画	[開催月]
1. 2月例会の企画運営	[2月]
2. 「エネルギー キッズ カレッジ (仮)」の開催 ※小学生対象	[4月～8月]
3. 「第48回郡山市こどもまつり」への参画	[5月]
4. わんぱく相撲郡山場所の開催、福島ブロック場所・全国場所への参加引率	[5月～7月]
5. 8月例会の企画運営	[8月]
6. 東北青年フォーラムへの引率	[9月]
7. 「未来を掴め！ハイスクール議会 (仮)」の開催 ※高校生対象	[10月～11月]
8. 会員拡大に関する情報収集	[通 年]
9. その他理事長所信に基づき行なう事業	[通 年]

★事業報告

1. 2月例会の企画運営

原正夫市長より『「子どもと子育てにやさしいまち」を目指して』のタイトルで、「郡山市第二次エンゼルプラン後期計画」について講演頂き、次世代の育成について理解を深めることができました。パネルディスカッションにおいては、原正夫市長に加え、青年会議所卒業後も各団体にて次世代育成のために活躍している川前光徳先輩、佐藤徹哉先輩、菊池信太郎先輩をパネリストに、郡山を取り巻く現状や課題を分かりやすく発言して頂き、明るい未来を開拓していくためのヒントを得ることが出来ました。対象である家族の参加者がいなかったのが残念でしたが、講演会・パネルディスカッションと長時間に渡り、多くのメンバーに早い時間から御参加いただくことができました。

2. 「エネルギー キッズ カレッジ」の開催

4月27日の参加者説明会からスタートしましたが、参加者募集の段階で、募集定員の半数にも満たない状況もあり、説明会を5月に1回増やすなど変更が生じましたが、参加者からは「参加できてよかった」と多くの声を頂けました。小学4年生から6年生を対象に最終的に26組の参加でした。郡山市生活環境課、日本大学工学部、福島新エネルギー総合研究所、郡山少年団体リーダーズクラブの皆様に見学やキャンプなど多くのプログラムに協力していただきました。そして最後には、郡山のエネルギーの未来について描いた「こおりやま未来予想図」を完成させることができました。完成後は市内各所や福島空港にて展示をし、多くの市民に子どもたちが真剣になった考えた郡山の未来を発信することができました。

3. 「第48回郡山市こどもまつり」への参画

本年はミュージカルがくと館や総合体育館の全面復旧に伴い、こどもまつりの規模が拡大され、多くの子どもたちが来場しました。昨年同様、晴天にも恵まれ、多くの子どもたちにビックリコーナーにて楽しんでもらうことができました。また本年は、事業のPRや事業写真の展示で郡山青年会議所の運動を市民に伝えていくことが出来ました。

4. わんぱく相撲郡山場所の開催、福島ブロック場所・全国場所への参加引率

本年は郡山場所の開催が震災後初の屋外開催ということで、晴天の下、多くの選手や子どもたちや家族が集まり、事故等もなく無事に開催することができました。懸念されていた放射線の問題についても、郡山市の迅速な協力のもと、表土入れ替えを行い、学校や保護者の不安を期待に変えることができた大会となりました。福島ブロック大会においては郡山から4名の小学生が全国大会の切符を手に入れました。全国大会においては、選手や保護者だけでなく、友達やその家族も応援に駆けつけ、我々メンバーや家族と一緒に声を枯らして応援することができました。

5. 8月例会の企画運営

あさかホスピタルグループ理事長である佐久間啓先生に子どもたちの心の成長について中心に講演していただき、我々大人が人間として、そして親として子どもたちとどのように接していくべきなのか理解を深めることができました。また、仕事や家庭においても会話やコミュニケーションが大事だということを改めて認識させられた講演でした。2月例会の反省が生かされず家族の参加者がいなかったのは大きな反省材料となりましたが、この例会で学んだことを家族や仕事で実践し伝えていかなければならないと感じさせられました。

6. 東北青年フォーラムへの引率

東北青年フォーラムは秋田県大曲の地において開催され、ゼミナール閉校式や各種フォーラムだけでなく、全国大会奈良大会 PR・東北JC宣言発表もあり盛りだくさんの内容でした。「LINK-TOHOKU ドーンとたからいち及び大懇親会」においては、雨足が強い悪天候の中、日本JC全国大会運営会議・奈良JCの皆様にも全国大会奈良大会PRに参加いただき、我々郡山メンバーも副主管として支援しました。交通手段の変更や、悪天候に伴うスケジュールの変更により、参加者メンバーにご不便おかけしたことを反省点として次年度に引き継がせていただきます。

7. 「未来を掴め！ハイスクール議会（仮）」の開催

委員会事業計画当初は、高校生を対象とした「未来を掴め！ハイスクール議会」を計画していたが、開催時期のタイミングが図れず、外部協力者から理解が得られなかったり、様々な団体との連携ができなかったりと計画の変更に至りました。

8. 会員拡大に関する情報収集

会員拡大会議に長井勝義委員を出向させ、委員会に新入会員候補者について落とし込みを行い、情報収集や新入会員候補者との面談を行いました。

9. その他理事長所信に基づき行なう事業

昨年に引き続き、本年も3月に福魂祭が開催され、キャンドルナイトの設営を担当させていただきました。郡山駅西口広場と郡山女子大にて2か所同時開催となりましたが、郡山女子大学構内の火気使用の問題もあり、予定より少ない本数での実施となりました。しかし、郡山の元気発信と犠牲者への鎮魂という趣旨の下、多くの市民に復興への思いを共有していただくことができました。また、日本J Cにて策定された「青少年版領土・領海意識醸成プログラム」が郡山市内小学校2校にて開催され、設営の補助として参加させていただきました。

最後に2013年度明るい青少年育成委員会では「未来 with スマイル～笑顔の輪を広め明るい未来を開拓しよう！～」のスローガンのもと、子どもたちを対象とした事業を展開しました。特に、中盤は毎週のように事業の連続で、メンバーの皆様にはご足労をおかけしました。しかし、事業を通して子どもたちから市民へ笑顔のリレーができたと確信しております。そして、未来を切り拓く人材の育成ができたと感じております。一年間ありがとうございました。